

③ 多様な文化を生かした魅力的なまちづくり

(1) 交流の機会の創出

■ 現状と課題

小郡市では、おごおり国際交流協会に委託し、国際理解講座（世界の家庭料理体験教室&講演会）を開催しています。日本に住む外国人を講師に迎え、出身国の暮らしや文化を紹介する講座ですが、参加者が固定化しているのが現状です。

一方で、外国人市民へのアンケートでは、「こうなると良いなと思うこと」として、普段の生活で「地域の人ももっと仲良くなる」、行政（市役所）に対して「日本人と外国人が交流できるイベントがある」など交流を希望する回答が多く見られました。

日本人市民へのアンケートでは、回答者の約6割が、今後、何らかの形で外国人との交流をしたいと考えていることが分かりました。「外国人から文化などを学びたい」

「一緒に地域行事に参加したい」という回答が多くなっています。

区長アンケートの結果からは、地域に外国人が住んでいても、交流がない場合が多いことがわかりました。交流はないが挨拶はよくする、日本人が積極的に外国人に声をかけることが必要といった回答も多くあり、外国人との交流に前向きな意見が多く見られました。

広く日本人と外国人の交流の機会を持ち、より多くの参加を促していきます。また、多文化共生の意識向上のため、講座やイベントの充実を図っていく必要があります。

■ 施策の内容

No.	具体的な施策	内容	担当
17	多文化共生イベントの開催	小郡市、おごおり国際交流協会主催のイベントへの参加を促進し、多文化理解の促進を図る。	総務広報課
18	外国人市民の地域への参加促進、環境整備 (No. 5再掲)	地域行事に外国人市民の参加を呼びかけ、交流を促進する。近隣の日本語学校など関係機関に向けて、多言語ややさしい日本語を活用し地域の情報を分かりやすく提供する。	総務広報課 コミュニティ推進課

(2) 多文化共生に対する意識啓発

■ 現状と課題

小郡市では各種啓発活動や教育を通じて、市民の人権意識を育んできました。外国人に対する人権の問題についても、「福岡県人権教育・啓発基本指針」や「第2次小郡市人権教育・啓発基本計画」に基づき、さまざまな人権問題とともに認識を深めていく必要があります。

外国人市民へのアンケートでは、困っていることや不安に思っていることの設定で「外国人ということ嫌な思いをする」という回答があり、外国人に対する人権の問題への取組が必要であることがわかりました。

日本人と外国人が対等な関係を築き、ともに安心して地域で生活をするために、「多文化共生」に対する意識啓発へのさらなる取組が求められています。

広報紙や市ホームページを活用した意識啓発を行い、市内小中学校や地域において、多文化共生の視点を踏まえた取組を行うことで、日本人と外国人が互いの文化を尊重し、差別や偏見のない魅力的な地域づくりを進めていく必要があります。

■ 施策の内容

No.	具体的な施策	内容	担当
19	人権尊重、多文化共生 についての意識啓発	「異文化を理解し、地域の構成員として共に生きていく」という差別や偏見のない地域づくりを推進する。市民対象の講演会の開催、広報紙や市ホームページによる意識啓発を行う。	総務広報課 人権・同和対策課 人権・同和教育課
20	小中学校での多文化 共生教育の推進	学校教育における多文化共生教育の推進に取り組む。	学校教育課
21	地域における多文化 共生の推進	校区コミュニティセンターにおいて多文化共生講演会を行う。	総務広報課 コミュニティ 推進課
22	外国人のための人権 相談窓口の設置と周知	人権に関する相談を受け付け、必要に応じて専門機関につなぐなど、きめ細やかに対応する。また、法務局や地方方法務局が実施している外国人のための人権相談窓口の周知を行う。	総務広報課 人権・同和対策課